



操作マニュアル

e.Typist エントリー基本操作

目次

	ページ
1 . e.Typist の主な機能	3
・電子マニュアルの開き方	3
2 . e.Typist の起動	4
3 . スキャナの設定	5
4 . 原稿の取り込み	7
4-1 . スキャナから	7
4-2 . ファイルから	7
5 . 画像の修正	9
6 . 認識の設定	10
英語の文章を認識する場合	10
7 . 認識範囲の設定	11
7-1 . 自動で設定	11
7-2 . 手動で設定	11
7-3 . 新聞の場合	11
7-4 . 枠の順番の変更	12
8 . 認識	13
8-1 . 成功例	13
8-2 . 失敗例	14
9 . 認識結果の修正	16
10 . データ転送	17

便利な使い方

付録1 . レイアウトを再現するには	18
付録2 . 翻訳するには	20

1 . e.Typist の主な機能

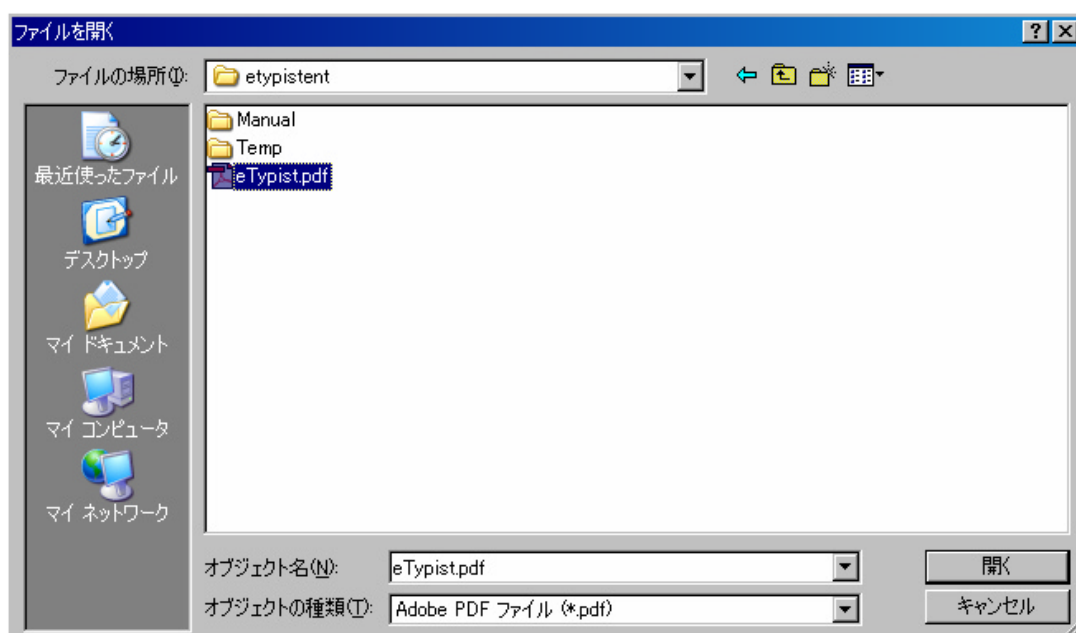
e.Typist とは、印刷された文書をスキャナで画像データとして読み込み、文字認識処理をしてテキストデータに変換するものです。

e.Typist でテキストデータに変換されたものは、Word や Excel、翻訳ソフトなどテキストファイルに対応している様々なアプリケーションソフトで活用できます。

本マニュアルでの操作説明は、基本的な操作方法のみとなっています。
さらに詳しい操作方法をご覧になりたい場合には電子マニュアルをご利用ください。

電子マニュアルは、e.Typist エントリーをインストールして頂いたフォルダの中に「etypist.pdf」というファイルがありますので、この「etypist.pdf」ファイルを Acrobat Reader でご覧ください。

Acrobat Reader の「ファイル」メニューから「開く」で下記のファイルを指定します。



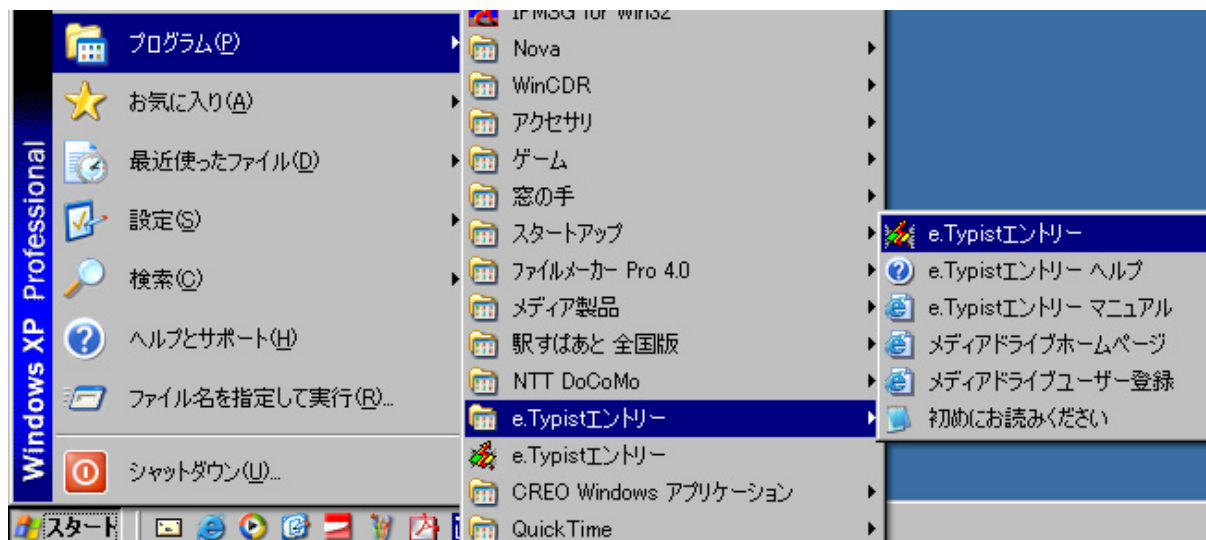
画面は Windows XP になります。

通常は、ファイルの場所で「マイコンピュータ」から「C ドライブ (またはローカルディスク(C:))」、次に「Program Files」を指定します。「Program Files」の中に「etypist」というフォルダが作られています。

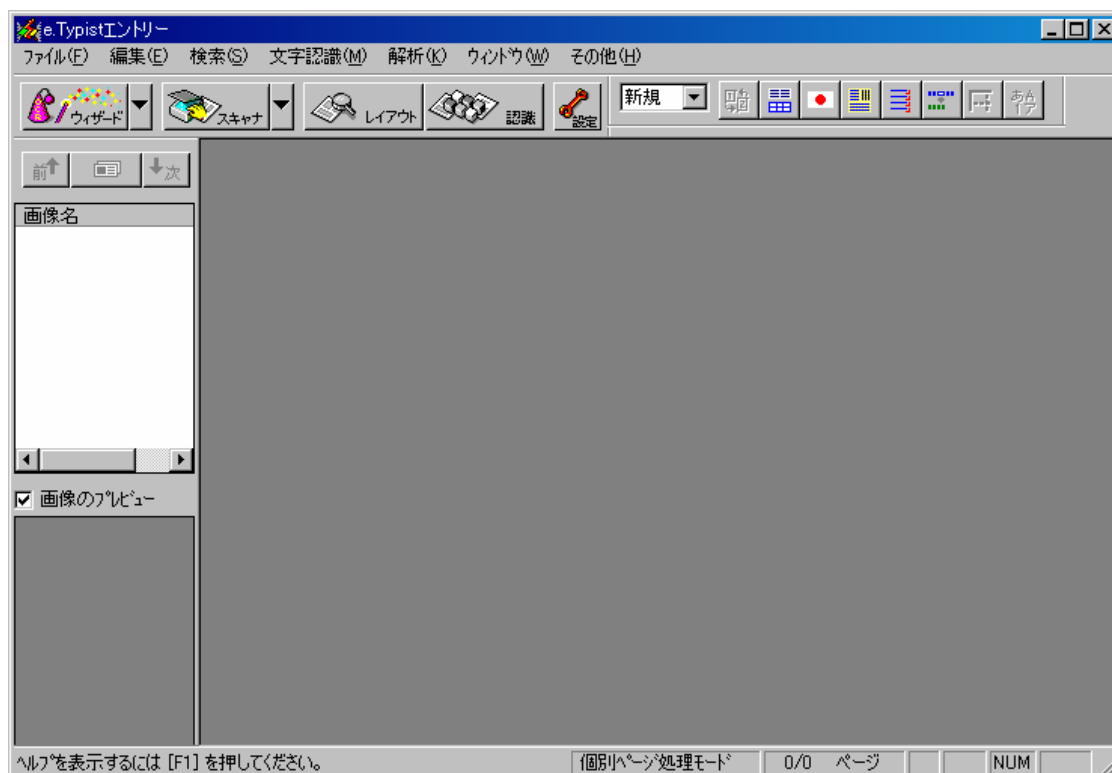
「etypist」フォルダを開くと上図のような画面になります。

2 . e.Typist の起動

「スタート」ボタンから「(すべての)プログラム」 「e.Typist エントリー」 「e.Typist エントリー」を選択します。



e.Typist エントリーを起動すると、下図のメイン画面が表示されます。



3. スキャナの設定

「その他」メニューから「スキャナ設定(S)」を選択します。



「スキャナドライバの選択」ダイアログが表示されますので、お使いのスキャナドライバを選択し、クリックしてください。

選択画面の表示はお使いの環境によって変わります。

← お使いのスキャナによってはチェックが付けられません。

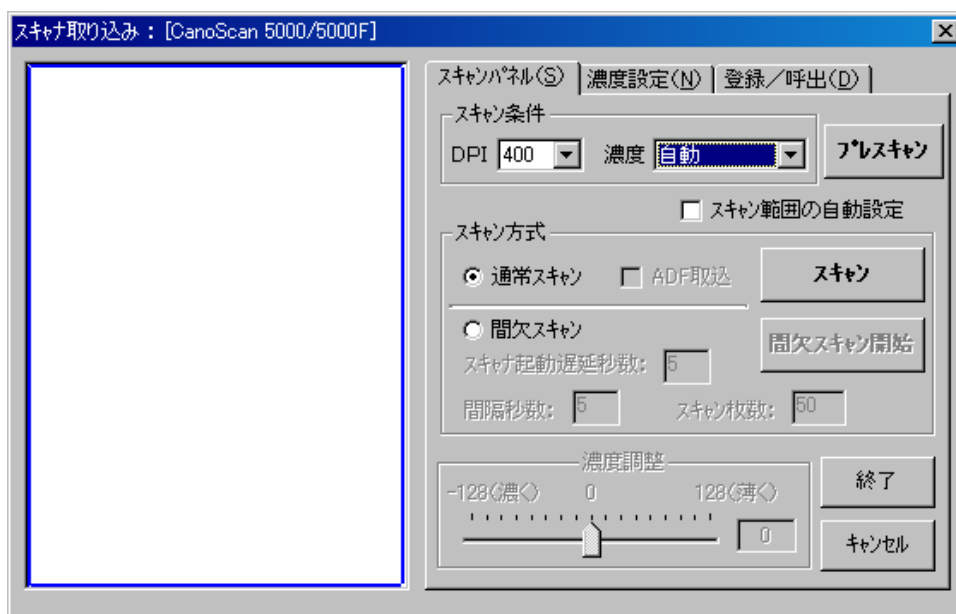
チェックが入らない場合にはスキャナメーカーの取り込みパネルをお使い頂きます。



設定を行わないと、スキャナからの読み込みを行うことができません！
スキャナドライバ名が表示されない場合は、お使いのコンピュータにスキャナドライバが入っていないことが考えられます。
その場合にはスキャナドライバを再インストールしてください。

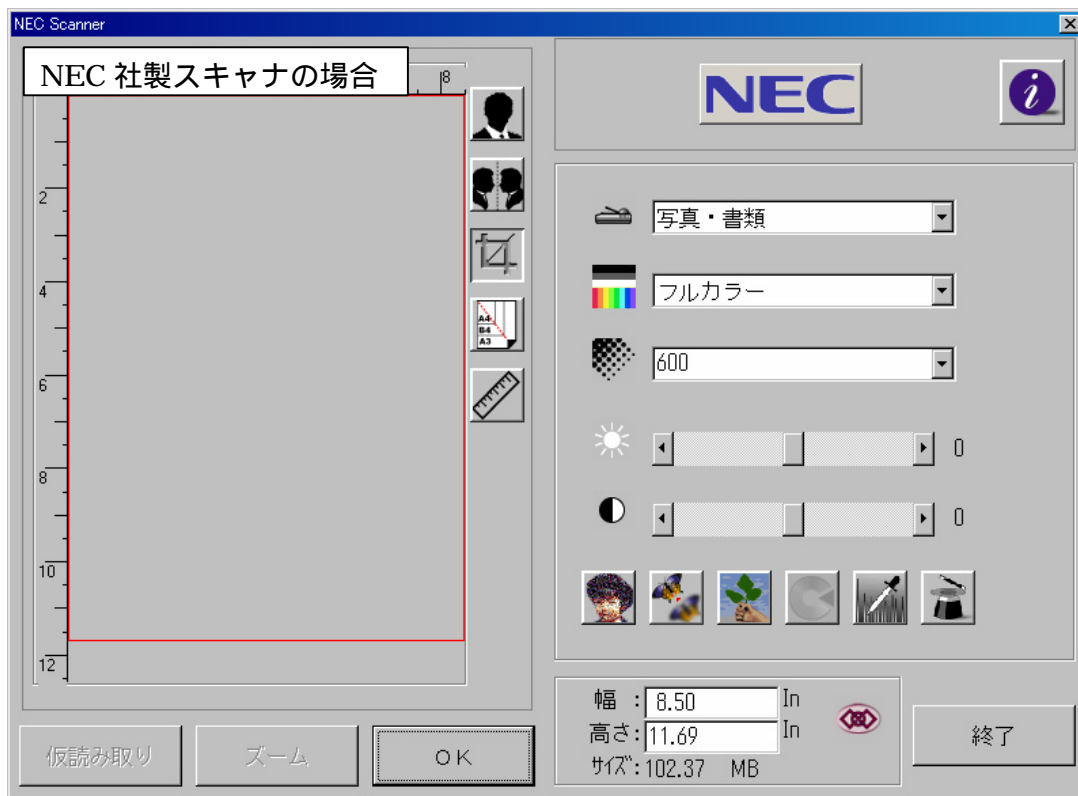
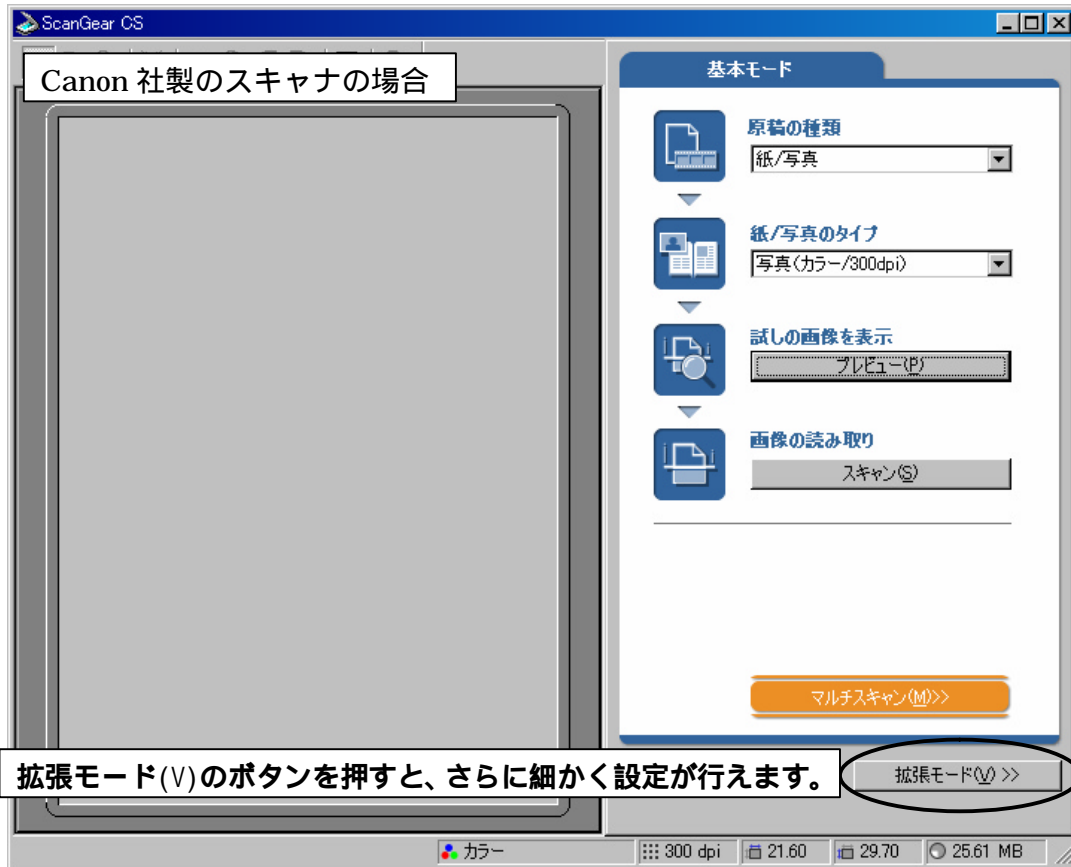


「スキャナメーカーの Twain インターフェースを使用しない」にチェックを付けると、下記の取り込みパネルが表示されます。






「スキャナメーカーの Twain インターフェースを使用しない」にチェックが入らない場合は、以下のようにスキャナメーカーの取り込みパネルが表示されます。



4 . 原稿の取り込み

4-1 . スキャナから

スキャナボタン  をクリックすると、スキャンパネルが表示されます。

(弊社専用パネル以外の操作方法については各スキャナメーカーの操作説明書をご参照ください)

カラーモードは「**白黒2値**」又は「**モノクロ**」

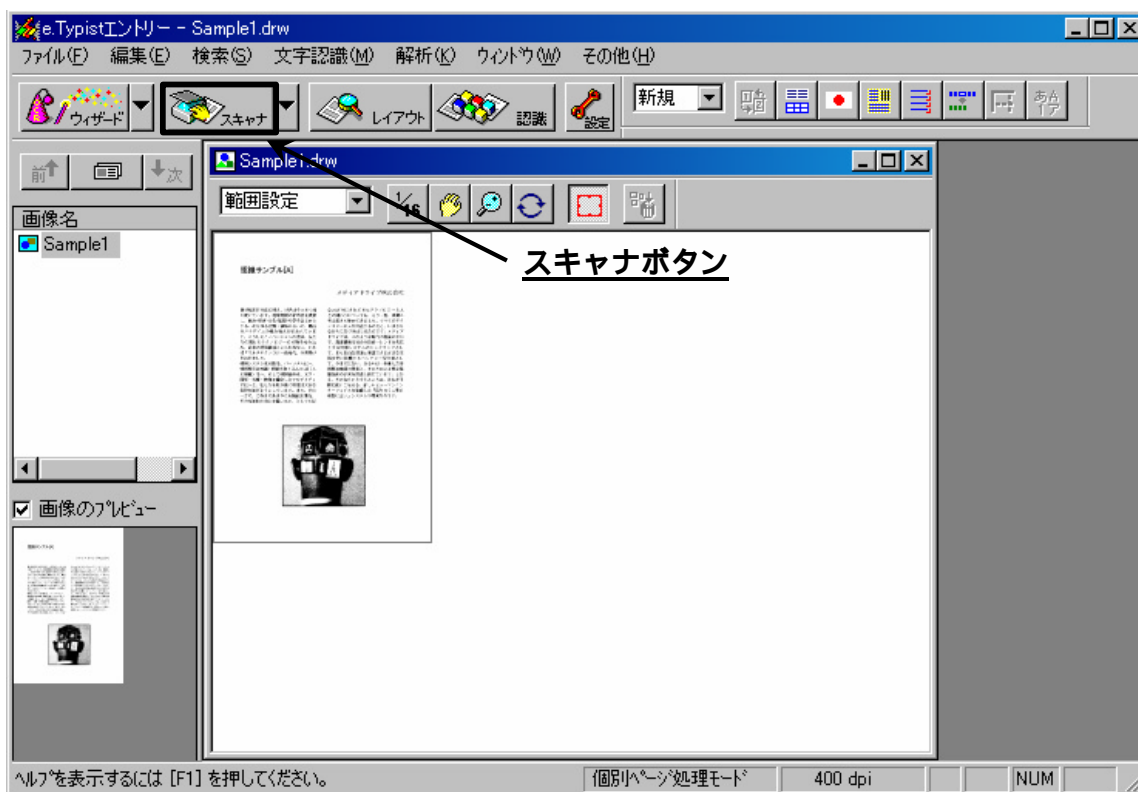
解像度は「**300dpi**」又は「**400dpi**」

上記以外の設定では原稿を正しく読み込むことができません。

新聞を読み込む際は、裏写りに注意して濃度を調整する必要があります。

A4 の原稿をそのまま読み込む場合、プレスキャン（仮読み）は必要ありません。

スキャンパネルを閉じると、e.Typist 上に読み込んだ原稿が表示されます。



4-2 . ファイルから

メニューバーの「ファイル」から「画像ファイルを開く」で開きたいファイルを指定することで開くことができます。

e.Typist エントリーでは開くことの出来る画像ファイルが制限されています。


カラー画像は取り込めません。「**白黒2値**」、「**モノクロ**」のみになります。

取り込める画像の解像度は「**300dpi**」又は「**400dpi**」のみとなります。

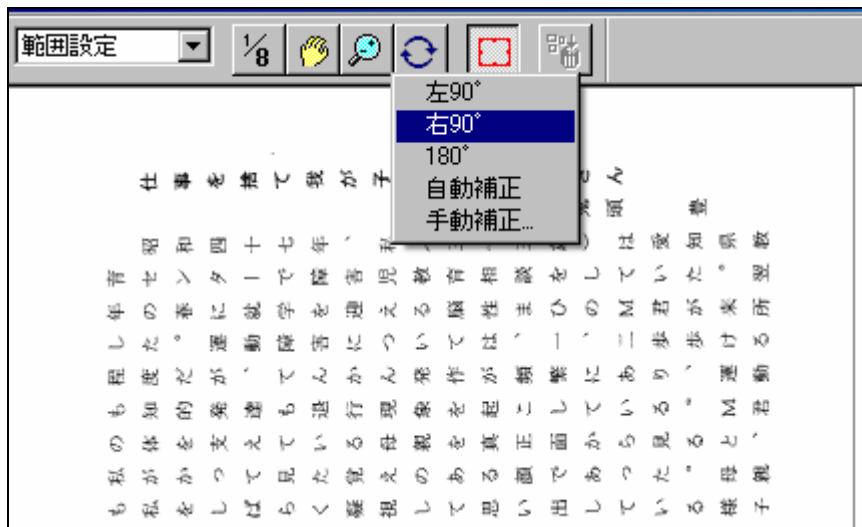
💡 画像の向きは正しいですか？

原稿の向きが正しくないと、認識の結果も正しく表示されません。

横向きの原稿を取り込んだ時などは取り込んだ後に必ず回転が必要です。

画像の向きを変えるには回転ボタンを押します。

下図のような場合には右90度を選択すると正しい向きになります。



💡 原稿の状態は良好ですか？

取り込んだ文字がはっきりと読める状態でないと正しく認識できません。

下記のような場合には、濃度を調整しながら再度スキャンし直してください。

原稿が薄い

向上を競いあい、ともすればなおざりにされてきたテクノロジーと人との関わりについても、もう一度、真剣に考え直され始めてきました。すべてのテクノロジーに人が介在するのだと、いまさら

原稿が濃い

向上を競いあい、ともすればなおざりにされてきたテクノロジーと人との関わりについても、もう一度、真剣に考え直され始めてきました。すべてのテクノロジーに人が介在するのだと、いまさら

5 . 画像の修正

取り込んだ画像にゴミのようなものが入っている場合や、白抜きの文字を認識させたい場合は画像修正をします。






「範囲設定」をクリックし「画像修正」を選択します。

画像ウィンドウのツールバーに下記のボタンが追加されます。

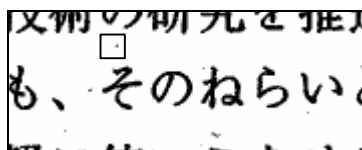


原稿のゴミを消す

 ボタンを押すと、マウスカーソルの形が  に変わります。

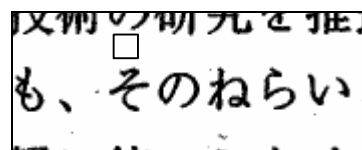
 でマウスカーソルの大きさを変えられます。

【修正前】



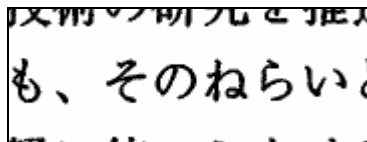
マウスカーソルをゴミにあわせる

【修正後】




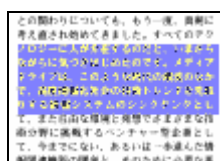
クリックで消えました！

同様に全てのゴミを消して、下図のように出来れば誤認識も少なくなります。

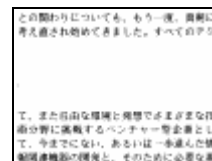


原稿の一部をまとめて消す

 ボタンを押し、任意の範囲を下図のように囲みます。



キーボードの
「Delete」キーを押す



選択した範囲が消えますので、ゴミが広範囲にある場合などはまとめて削除できます。

白黒反転ツール の使い方

下図のような白抜きの文字は認識できません。

認識サンプル[A]

この部分を「範囲設定」ツールで囲みます。

認識サンプル[A]

この状態で「白黒反転」ボタン  をクリックします。

認識サンプル[A]

このようになりました。これで認識が可能になります。

もう少しうまく範囲設定できれば、黒い部分をほとんどなくすることも可能です。

画像の修正が終わったら「画像修正」を「範囲設定」に戻してください。




6. 認識の設定

レイアウト枠を作る前に設定すれば、全ての範囲が同じ条件で設定されます。
レイアウト枠を作った後ならば、それぞれの枠に対して設定をすることができます。



画面右上の  ボタンで各設定を行います。

通常は上記のようなボタン表示にしておいてください。

英語の文書を認識する場合

 ボタンをクリックすると、下図のように表示されますので「英語」を選択します。



「英語」をクリックすると  (日の丸) となっていたボタンが  (星条旗) に変わります。

7 . 認識範囲の設定

7-1 . 自動で設定

レイアウトボタン  レイアウト で認識する範囲に枠を作成します。



左図のようにレイアウト枠が作成されます。
枠の左上に表示される数字は認識を行う順番です。
枠の色によって、領域が種別されます。

- ・ 緑枠 - 文章領域
- ・ 青枠 - 表領域
- ・ 赤枠 - 図領域

枠の順番、領域の種別が間違っている場合には、
各々の枠をクリックし、枠ごとに変更することができます。

7-2 . 手動で設定

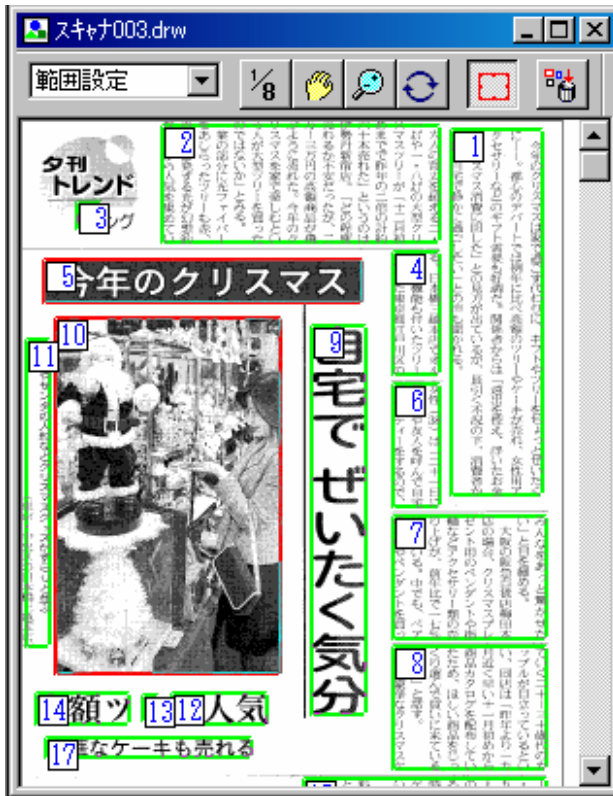


枠を作成したい部分をマウスでドラッグして囲みます。
囲った順に認識順番の番号が付きます。

7-3 . 新聞の場合

- ・ 新聞の場合は、普通の文章と比べるとレイアウトが複雑になり、認識が難しくなります。初めのうちは簡単なもので作業をお試してください。
- ・ 新聞を取り込む際は濃度に注意してください。
(プレスキャンで仮読みした状態を見ながら濃度を調整してください)
- ・ 古い新聞など紙の状態が悪いものは認識が難しくなります。
- ・ 裏側の文字まで取り込まれる場合には、裏側に黒い紙を挟んでください。

7-4 . 枠の順番の変更（認識順序の変更）

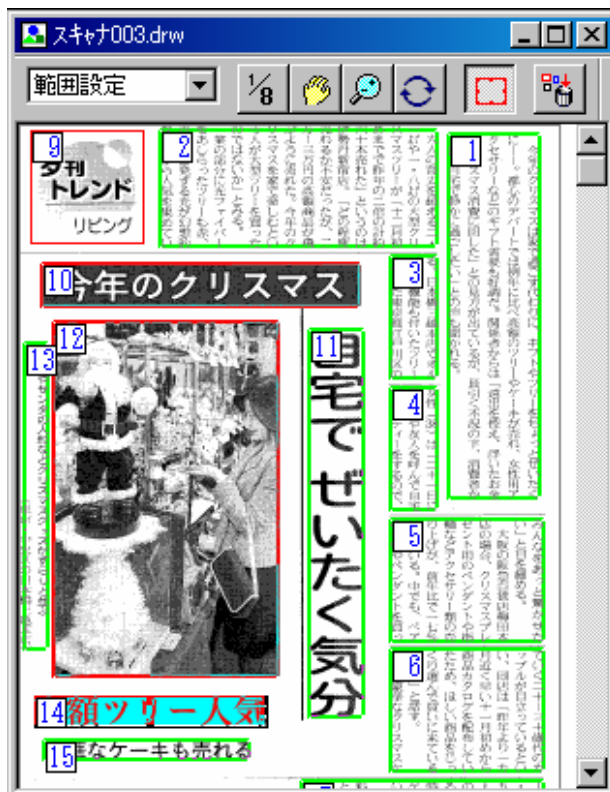


6	11
1	12
2	13
3	14
4	15
5	16
6	17
7	
8	
9	
10	

左図で6番になっている枠を5番に変更するには、6番の枠をマウスで右クリックします。枠番号の一覧が表示されますのでそこで5番を選択すると、6番だった枠が5番に変更されます。


枠を削除するには、削除したい枠をクリックしてキーボードの「Delete」キーで削除します。

12番から14番の様に、枠が分割されて作成されてしまった場合には、12番、13番の枠を削除し、14番の枠を右側にドラッグして大きさを変更します。そうすると、一つの枠にすることができます。



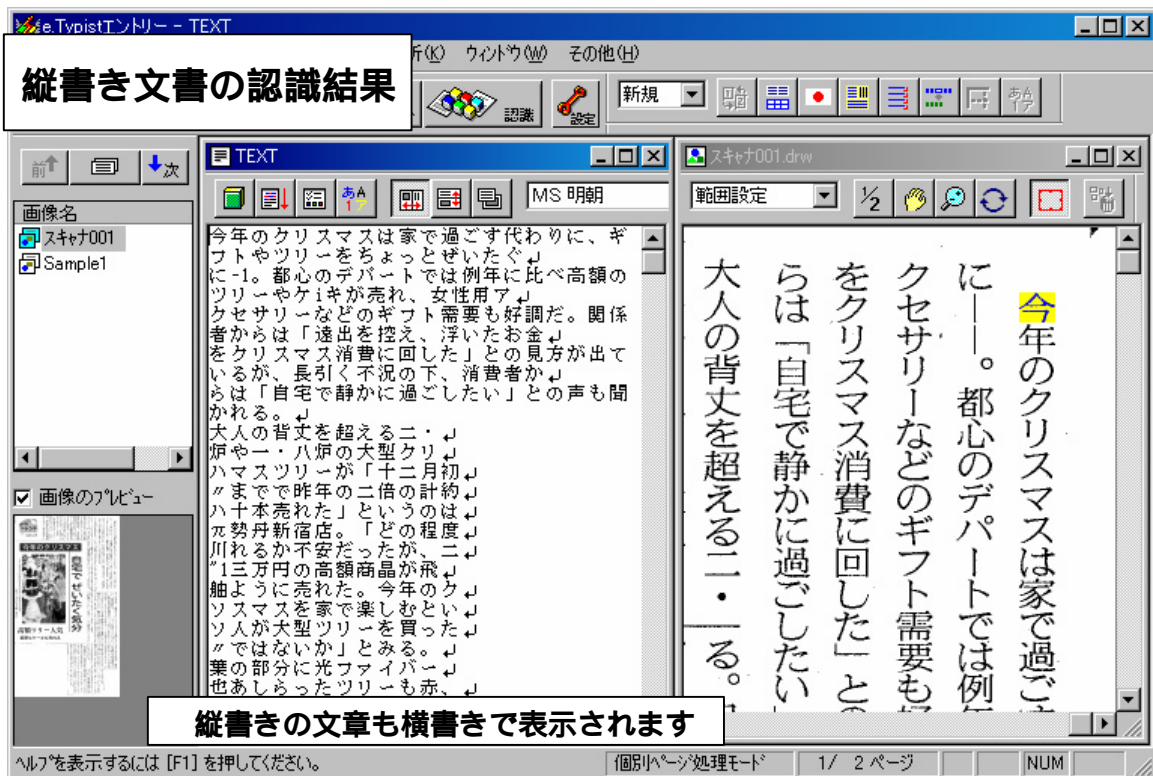
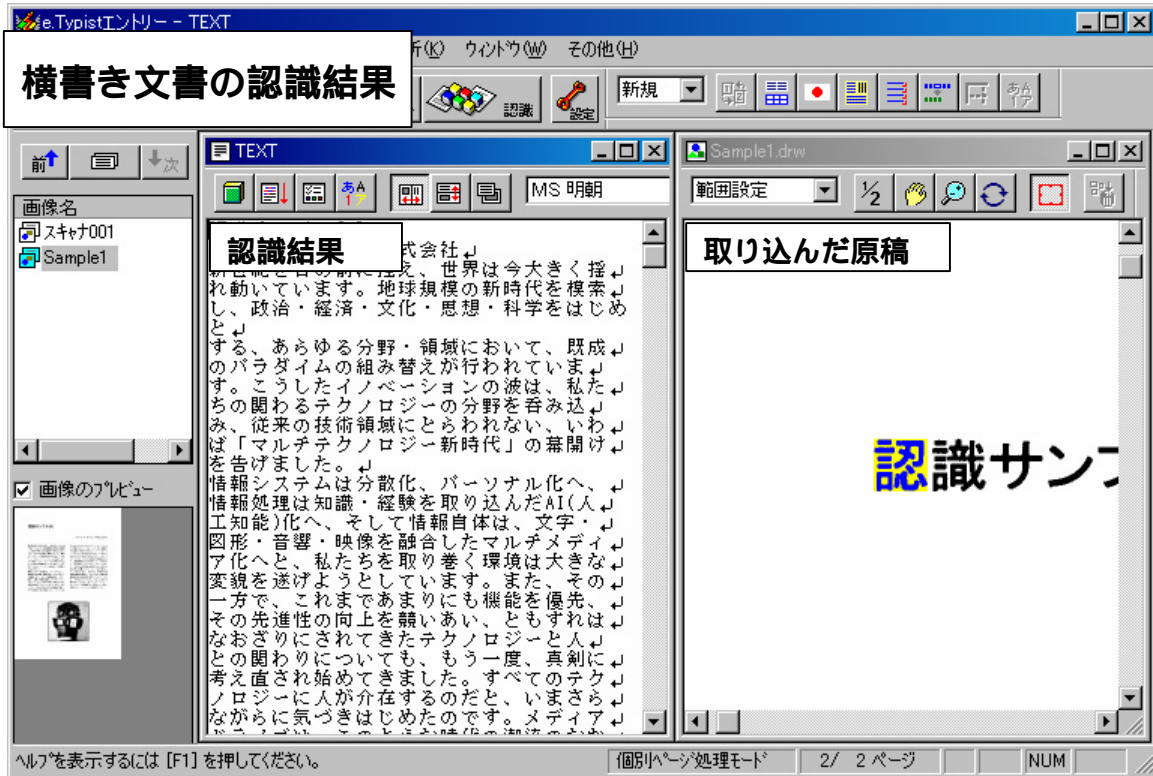
全ての枠を正しく設定できました。

8 . 認識

認識ボタン  を押すと認識が始まります。

認識が終わると、取り込んだ原稿と認識結果の二つに画面が分割されます。

8-1 . 成功例



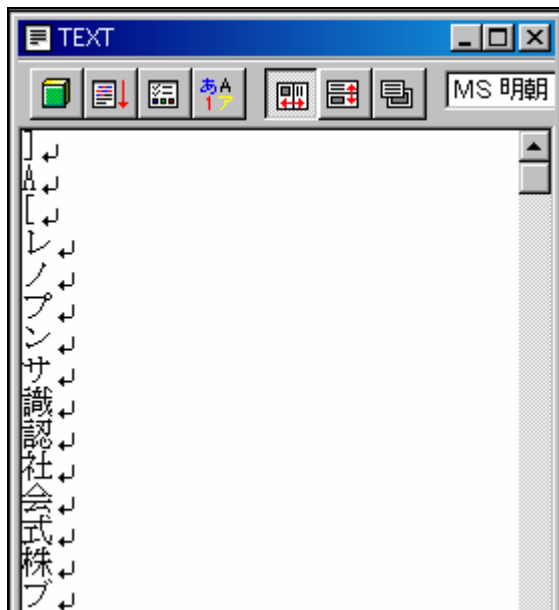
縦書きの文章も横書きで表示されます

8-2 . 認識の失敗例

ここでは、例として右図の画像を認識した場合の失敗例をいくつか紹介します。



a . 一文字ずつで改行される



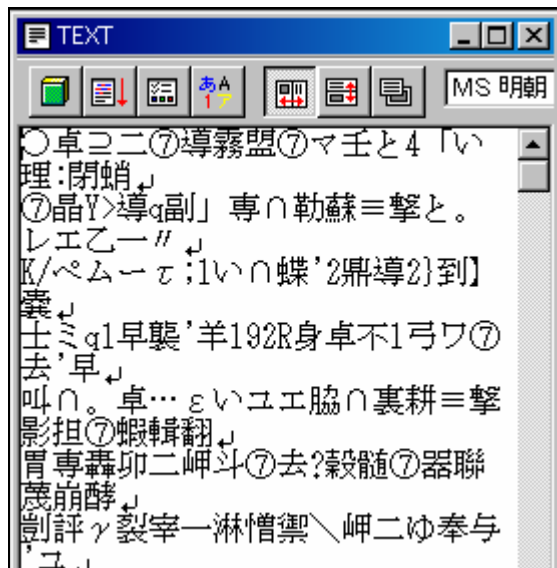
ここをチェック！

段組の指定が縦一段、または縦多段になっていませんか。

【対策】

横一段、または横多段にして認識をし直しましょう。

b . 意味の通じない漢字が表示される



ここをチェック！

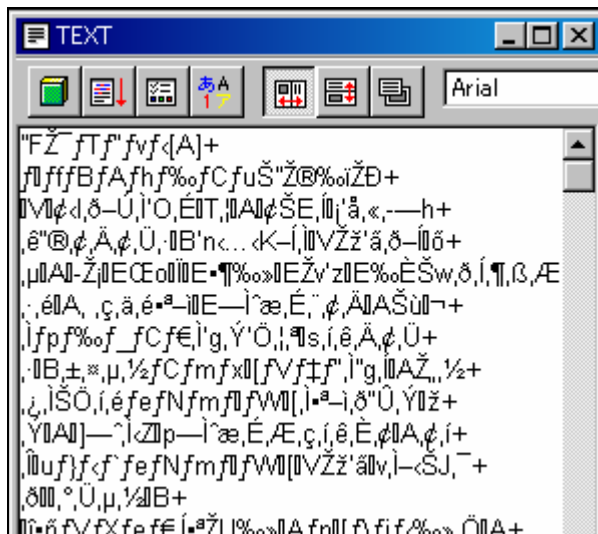
取り込んだ画像の向きが間違っていないですか？

逆さまや横倒しになっていませんか？

【対策】

回転で向きを正しく修正してから認識し直しましょう。

c . 訳の分からない文字が表示される



c - 1

ここをチェック！

TEXT ウィンドウのフォント設定はどうなっていますか。

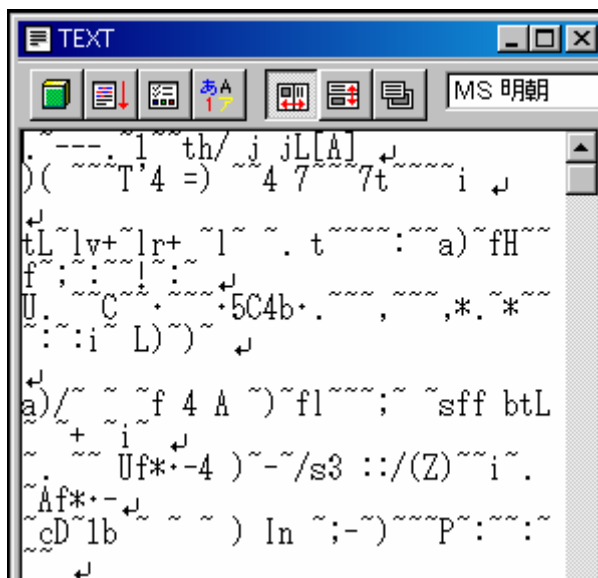


左図のように欧文

フォントになっていませんか。

【対策】

「MS 明朝」「MS ゴシック」など日本語フォントにしてください。



c - 2

ここをチェック！

認識言語の設定が「英語」になっていませんか？

【対策】

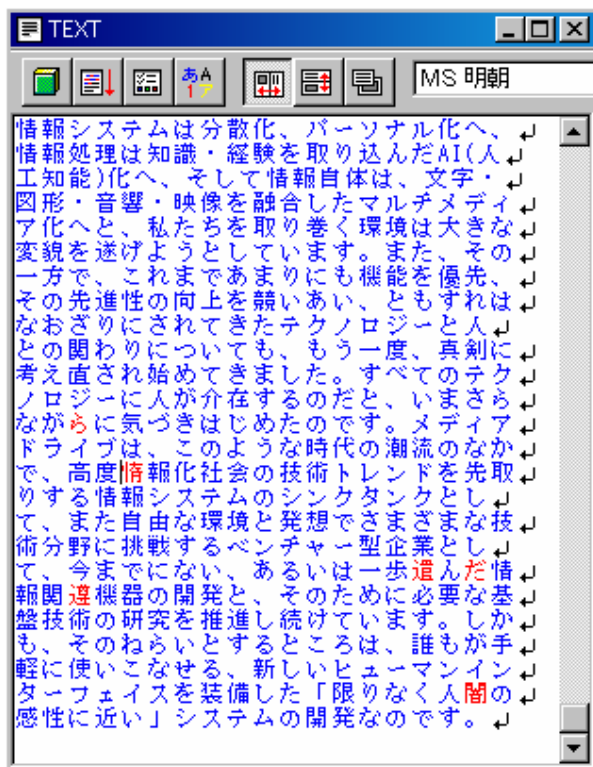
認識言語を「日本語」にして認識し直してください。



認識を行う前には、画像の向き、認識言語の設定をよく確認しましょう。

9. 認識結果の修正

「TEXT」ウィンドウの全文解析ボタンを押します。



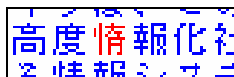
文字が青と赤に変わります。
文字の色には下記のような意味があります。

青文字 - 正しいと判断された文字

赤文字 - 誤り、また前後の文字に誤りの可能性

青文字であっても、間違っって認識されている可能性があります。

反対に、赤文字であっても正しい可能性があります。



左図の場合、「高度情報化」の「情」を「情」と間違っています。

文字の修正は、**候補文字での修正**、**キーボードから直接入力での修正**と二通りの修正方法があります。

候補文字での修正

間違っている「情」という文字をマウスで右クリックします。

右図のように「候補文字」が表示されます。

1 番上の文字は現在表示されている文字です。

2 番目の表示は文字の画像です。

3 番目以降の文字の中から正しいものを選択します。

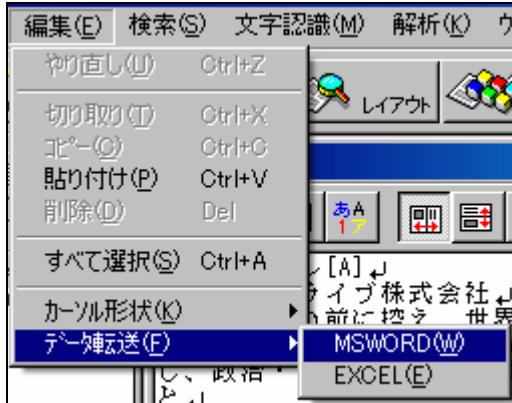
ここに正しいものが表示されていない場合には、キーボードから直接正しい文字を入力してください。



10 . データ転送

認識結果のテキストデータを Word や Excel に貼り付けます

ツールバーの「編集」から「データ転送」で「MSWORD」か「EXCEL」を選択します。



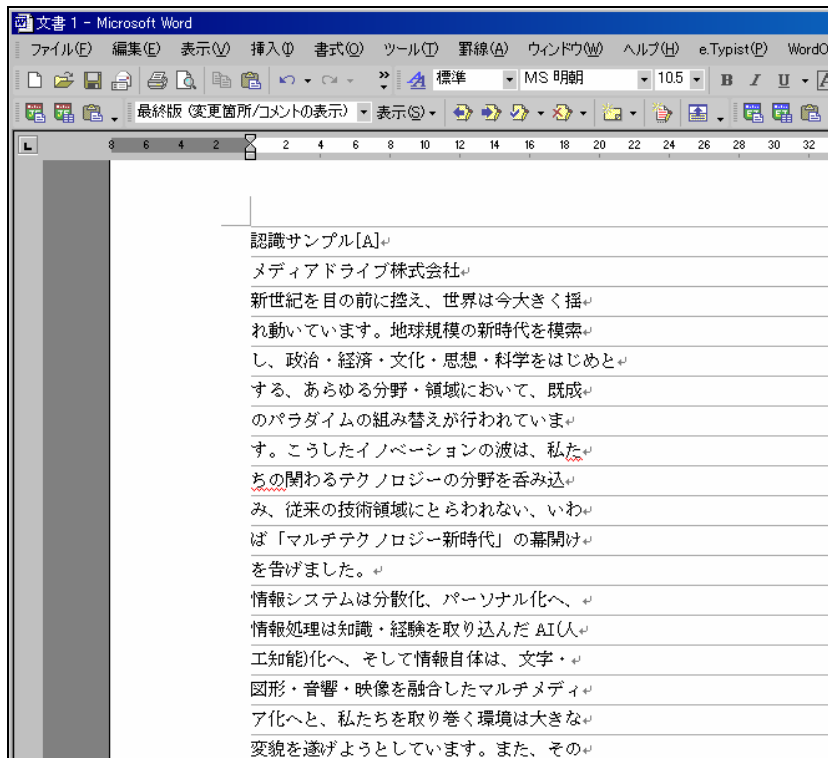
TEXT ウィンドウが選択されていないとデータ転送は選択できません。

ここでは、「MSWORD」を選択します。

「MSWORD」は Microsoft Word です。お使いのパソコンに Microsoft Word が入っていない場合、データ転送できません。

お使いの環境によってはデータ転送が出来ないことがあります。その場合には転送先のアプリケーション (MSWORD または EXCEL) を先に起動しておいてください。

Microsoft Word が自動的に起動し、「TEXT」ウィンドウの文字が張り付きます。



注意

データ転送では、**文字だけが左詰め**の状態張り付きます。

罫線、レイアウト、図領域の画像は**再現されません**。

転送後に追加や修正を行ってください。

付録1．レイアウトを再現するには

e. Typist エントリーでは、RTF 形式で保存することにより右図のように、認識結果を元原稿と近い形で表示させることが可能です。

その時に取り込んだ原稿の画像も一緒に保存できます。

ある程度の再現はできますが、元の原稿と全く同じにはなりません。修正の作業は必要になります。



新聞の場合



右図のように新聞と近い形で表示させることも可能です。

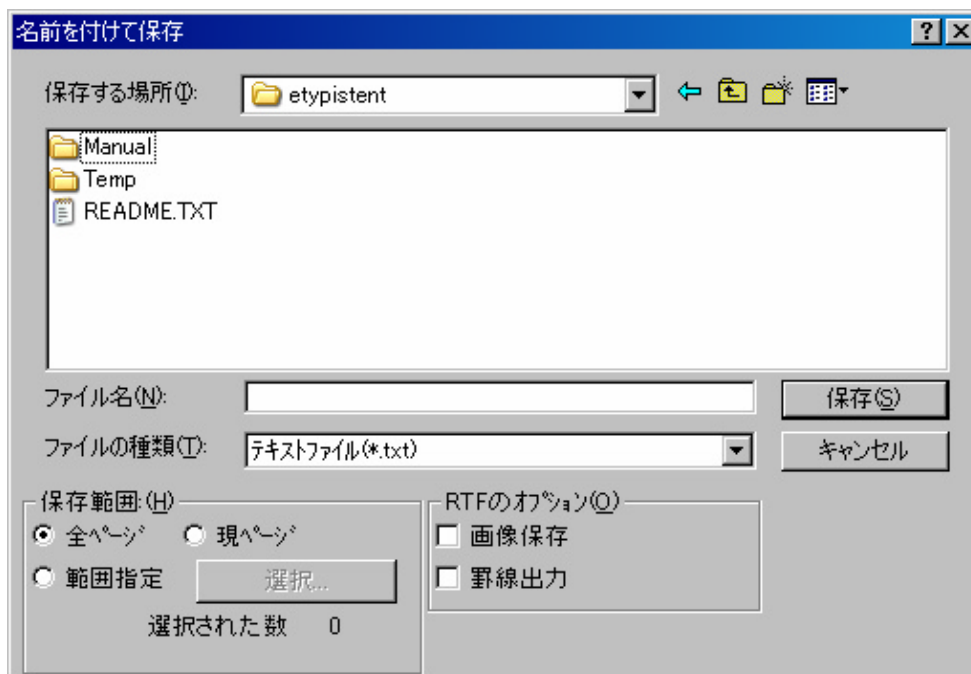
【下図は元原稿です】



< 操作手順 >

認識後、データ転送をせずに e.Typist エントリー上で保存の作業を行います。
「ファイル」から「名前を付けて保存」を選択します。

「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。



「保存する場所」: よく使用する分かりやすい場所に変更してください。

「ファイル名」: 分かりやすい名前を入力してください。

「ファイルの種類」: RTF ファイルを選択します。

「保存範囲」: 保存したい範囲にあわせて選択してください。

「RTF のオプション」: 必要に応じてチェックを入れます。

「画像保存」: 取り込んだ原稿に写真などの図領域がある場合にチェックを入れます。

「罫線出力」: 取り込んだ原稿に罫線が入っている場合にチェックを入れます。

ファイルの種類が「BMP」や「TIFF」と表示される場合には、「TEXT」ウィンドウを選択し直してから再度「名前を付けて保存」を選択してください。

付録 2 . 翻訳するには

e.Typist では、画像データをテキストデータに置き換えるまでの作業になります。
認識が終わりましたら、下記操作手順で翻訳を行ってください。

< 操作手順 >

1 . 認識の終わったテキストデータを翻訳ソフトに持っていきます。

1 - 1 データ転送

Word 上で翻訳できる翻訳ソフトをお持ちの方は、データ転送で Word に貼り付けてください。

1 - 2 テキストファイルで保存

テキストファイルを翻訳する形の翻訳ソフトをお持ちの方は、「テキストファイル」として保存したファイルを翻訳ソフトから開いてください。

1 - 3 コピー&ペースト

テキストウィンドウを選択した状態でキーボードの「F9」キーを押します。
テキストウィンドウの文字列が全て選択された状態になりますので、あらかじめ起動しておいた翻訳ソフトで「貼り付け」としてください。

2 . 翻訳ソフトで翻訳を行います。

このとき、文字化けや誤認識している文字があると正しく翻訳ができません。
文字化けや誤認識文字は翻訳前に修正しておいてください。

翻訳ソフトの詳しい操作方法は、翻訳ソフトメーカー様にお問い合わせください。



e.Typist だけでは翻訳は出来ません。別途翻訳ソフトが必要です。
翻訳ソフトに対応したファイル形式で作業を行ってください。